

中野区教育委員会第40回協議会会議録

開催日時 平成19年11月16日(金) 開会10時03分 閉会11時33分

開催場所 中野区役所教育委員会室

出席委員	中野区教育委員会 委員長	山田 正興
	同 委員長職務代理	高木 明郎
	同 委員	大島 やよい
	同 委員	飛鳥馬 健次
	同 教育長	菅野 泰一
事務局職員	教育委員会事務局次長	竹内 沖司
	教育経営担当課長	小谷松 弘市
	教育改革担当課長	青山 敬一郎
	学校教育担当課長	寺嶋 誠一郎
	指導室長	入野 貴美子
	生涯学習担当参事	村木 誠
	中央図書館長	倉光 美穂子
書記	教育経営分野	松島 和宏
	教育経営分野	渡邊 真理子

傍聴者数 9人

議 事

(報告事項等)

○委員長、委員報告事項

- ・ 11 / 2 谷戸小学校研究発表会について
- ・ 11 / 5 千葉県千葉市立打瀬小学校視察について
- ・ 11 / 7 中国北京市西城区訪問団反省会について
- ・ 11 / 6～7 平成19年度区市町村教育委員会研究協議会について
- ・ 11 / 8 2007年中野区立中学校連合音楽会について
- ・ 11 / 9 第十中学校訪問と中学校長会との意見交換会について
- ・ 11 / 10 第五中学校60周年記念式典・祝賀会について

- ・ 11 / 10 第一中学校60周年記念式典・祝賀会について
- ・ 11 / 10 第六中学校60周年記念式典・祝賀会について
- ・ 11 / 10 2007年中野区立中学校英語学芸会について
- ・ 11 / 10 中野区中学校連合芸能発表会について
- ・ 11 / 10～11 第38回全国学校保健大会について
- ・ 11 / 12 生と性を考える講演会について
- ・ 11 / 13 中友会「学校教育に期待すること」について
- ・ 11 / 14 東京都学校医会「インフルエンザの流行」について

○教育長報告事項

- ・ 11 / 3 第二中学校60周年祝賀会について
- ・ 11 / 4 中野区柔道連盟秋季柔道大会について
- ・ 11 / 4 中野区舞踊連盟日本舞踊大会について
- ・ 11 / 7 平成19年度区市町村教育委員会研究協議会について
- ・ 11 / 10 第五中学校60周年記念式典・祝賀会について
- ・ 11 / 14 中野区青少年問題協議会について
- ・ 11 / 15 薬物乱用防止中野地区大会について

○事務局報告事項

- 1 平成20年度予算で検討中の主な取組み（案）について（教育経営担当課長）
- 2 平成19年度新体力テストの結果について（速報）（指導室長）
- 3 東中野図書館の臨時休館日について（中央図書館長）

午前10時03分開会

山田委員長

皆さん、おはようございます。

ただいまから、教育委員会第40回協議会を開会いたします。

本日は、村木生涯学習担当参事が所用のため遅れて出席する予定です。

<委員長、委員報告事項>

山田委員長

それでは、初めに、委員長、委員報告から始めさせていただきます。

私からでございます。

11月2日になりますが、教育委員会の終わった後でございますけれども、谷戸小学校におきまして研究発表授業が行われました。テーマは、「ライフスキル教育、その実践を通して」ということで、「みずから考え、よりよい行動ができる児童の育成」ということで、谷戸小学校は私が学校医をやっているわけなのですけれども、平成14年から3年間は、中野区全域でエイズ教育、性教育の研究推進校の指定校としてその実践に取り組みました。その後、ライフスキル教育。考えたことが行動に結びつくようなということの手段で、ライフスキル教育を取り入れた実践授業ということで授業が展開をされました。当日配られた『ライフスキル』という小冊子があります。これを見開きで開きますと、「お子様にはこんなことが当てはまりますか」「家庭ではこんな教育をしていきましょう」ということで、参加された保護者の皆さん方に、例えば「親が子どもたちと話し合う機会をふやす努力をしましょう」「コミュニケーションの第一歩はあいさつです。親から『おはよう』を子どもに言いましょう」「子どものよいところを見つけ、大いに褒めましょう」といったことを発信しております。

谷戸小学校の近くの道路には、「あいさつ通り」と言いまして、地域の方たちと子どもたちがあいさつをするということを習慣づけた道路にそういった名前をつけられていると思います。また、大人へのパスポートということで、低学年から高学年で、スキルの中で、自分の意思を決定するための技術とかスキル、またはコミュニケーションのスキル、自己の認識スキルというようなことの実践を授業でされています。

授業は、子どもたちと先生とロールプレイをしながら、子どもたちにその実践を見せるですとか、ビデオ、CD-ROMを使っていろいろな場面を子どもたちに見せて、その中で子どもたちと実践する。もしくはOHPを使ってということで、いろいろな技術を取り入れた授業が展開され、子どもたちも実際に体験した学習を展開していきます。例えば低学年でも、嫌なことをされたときにはどのように友達にお断りをするのがいいのかというようなことを実践をされておりました。

その後の講演のほうでは、今問題になっています「子どもとメディアの概念について」ということで、元はNHKにお勤めされていた方で、清川輝基さんという『人間になれない子どもたち』という著書を書いたのですけれども、そういった先生が講演をされております。これからもメディアというものの害が子どもたちに及ぼす影響——衝撃でしたのは、

お母さんがお子さんにおっぱいをあげているときに、お子さんの顔を見ないでおっぱいをあげているお母さんの数が70%にも及んでいるということで、子どもたちは生まれたすぐから、いわゆるお母さんとの愛着形成の不全が起きている、そういう時代が今迫っているというふうな警告のお話がありました。

11月8日になりますが、なかのZEROホールにおきまして、午前と午後に分かれて、区立の中学校が一堂に会しての中学校連合音楽会が開催されました。私は午後から行きましたので、第四中学「四葉学級」の子どもたちが、ハンドベルを一生懸命演奏していた様子が目に浮かびます。

楽屋をちょっとのぞきますと、各学校からいろいろな楽器が搬入されて、また、演奏は学校によって使う楽器も違いますので、朝早くから楽器の運送などに携わってその準備をされた裏方の方もたくさんいるかと思います。一堂に会して合唱、そして吹奏楽の演奏ということで、ZEROホールという立派なホールを使って子どもたちが演奏できる、その喜び、そしてお友達と一緒に演奏、合唱ができるその喜びというのは大切なものではないかと思ひまして、今後もこういった事業が充実されることを願っております。

11月9日は、教育委員会は第十中学校を訪問してまいりました。第十中学校は非常に小規模化しておりまして、全校生徒で100人にも満たないという中学校でございます。そんな中で授業を視察してまいりました。

特に1年生、3年生は、女の子がすごく少ない学校になっておりますので、いろいろな授業をしていく上で、特に体育の授業ですとかそういったところでは非常なご苦労があるのではないかなと思います。子どもたちはその中で、少人数ではございますけれども、非常に意欲を見せて授業に取り組んでいるような姿がありました。2年生は今21名でしたか、男の子、女の子がちょうど半々なのですけれども、とにかく少人数のクラスでございました。

その後、校長先生の努力によりまして、ことしの1年生は30名強の子どもたちが集まっておりますけれども、女子の生徒が非常に少ないということで、校長先生も今現場でご苦労されていると聞いております。

午後からは、中学校の校長先生と意見交換をさせていただきました。意見交換の中では、現在、中学校で校外学習を3泊4日で常葉のほうに出かけているわけですが、先生方は、例えば農業体験、稲刈りの体験をしたいというようなご希望もあるようなのですけれども、いかんせん受け入れ側は一つしかございませんので、スケジュール的に

は順番がなかなかとりにくいというのが現状でございます。また、常葉までの行程が非常に長いこともありまして、今後の校外学習は本当に3泊4日という日程が必要なのかというお話まで出てまいりました。

また、学校施設の充実につきましては、普通教室以外の各特別教室につきましても冷房化を進めていただきたいというようなお話を承ってまいりました。

また、特別支援教育がことしから始まって、巡回相談に区のほうで専門家のチームを組んで行っていただくわけでございます。それに対しては評価を非常に高くいただいておりますが、やはり特別支援教育は、ある程度の技量を持った方たち、資格のある方たちのマンパワーが不可欠なものではないかということで、今後もマンパワーについてぜひご考慮いただきたいというようなご発言もいただいたところであります。

少し長くなりますが、もう少しおつき合ください。

11月10日、11日は、私は年に1回でございますけれども、全国学校保健大会というのがございます。ことしは第38回を迎えたのですけれども、香川県高松市において行われましたので、私は、9日に開催されました全国学校保健学校医の大会というのに出かけてまいりました。全国の学校医が一堂に会してということで、午前中は内科の学校医が「体」の部分、「心」の部分に分かれて、また、耳鼻咽喉科部会、眼科部会ということで、分科会に分かれていろいろと研究発表がされました。私は「心」のところに出ていたのですけれども、やはり特別支援教育についての巡回サポート体制の話ですとか、今、文部科学省が学校の内科・眼科・耳鼻科だけでなく、その他の学校専門医の派遣——地域学校保健連携推進事業というのですけれども、こういったものを実践した各都市からの発表がございました。子どもたち、もしくは保護者からのニーズに応じた、健康教育を進めていく上で、内科・眼科・耳鼻科だけにとどまらず、整形外科・精神科・産婦人科・皮膚科などのドクターが学校医として参加できる道がこれからも続くことを願っております。

昼食を挟みまして、特別講演は、知っていらっしゃると思いますけれども、来年度からいわゆる区民健診ですとか行政健診の中に特定保健指導というのが入っておりますけれども、主には、世に言われているメタボリックに対してということで、子どものメタボリックシンドロームはどうしたらいいだろうかということの講演をいただきました。メタボに限らず、生活習慣病としてですけれども、子どもたちの時代からメタボリックになっていますと、大人になってからもそれを引きずることが多い。また、子どもたちの中で、10%以上の子どもたちはメタボリックにもうなっているということで、それは生活習慣を変え

ることで十分に変わることができる。具体的には、これから学校の現場で腹囲をはかるようにするためにはどのようにはかれば正確にはかれるのかというような話も出てまいりました。まだ少し検討される事項があるかと思えますけれども、子どもの生活習慣をいかに変えていくか。これは大人の生活習慣を変えることにほかならないことですが、そういったお話がされました。

あともう1点は、四国でございますので、「四国でよみがえる心と体」ということで四国巡礼についての講演を聞いてまいりました。

11月12日でございますけれども、中野区立第三中学校に招かれまして、「生と性を考える」ということで、中学校2年生の生徒さんたちと一緒に、性教育とまではいきませんが、お友達とのつき合い方といいますか、思春期におけるつき合い方についての講演を1時間ほどしてまいりました。その中で、最近ちょっと問題になっていますメディア関係の携帯サイトでの事件などの一つの対話モデルを使いまして、生徒さんたちに一緒にプレゼンテーションしていただいて、それに対してどのような問題点があったのか、出会い系サイトの危険なところはどこなのかというようなことのお話のディスカッションをしてまいりました。子どもたちも非常に熱心に聞いていただきまして、今後の子どもたちの生活の一つの教訓になればと思ったわけでございます。

13日の夜は、中野区の先生方のOBがつくられています中友会という会合がございまして、そこに招かれまして、「学校教育に期待すること」ということで、今、学校の中で起こっていることについて副校長先生からいろいろなお話を聞かせていただきました。

最後ですけれども、昨日は、東京都医師会の学校医委員会がありまして、皆様ご承知だと思いますけれども、ことしはインフルエンザの流行が少し早く始まっておりまして、10月の初旬にそういった兆候が少しあったのですが、ここに来まして、世田谷、練馬のほうで学級閉鎖が出ました。これは香港Aとソ連Aが検出されたということで、例年より少し早く発症しているということで、少し注意をしていただきたいということ。お隣の杉並でも学級閉鎖が出たということでございますので、学校の現場では早くから手洗い、うがいが必要になった時期ではないかなと。こんな暖かいのにということでございますけれども、東南アジア型といいますか、沖縄型といいますか、こういった暖かい時期にも来てしまっているのでは、もしかしたら、インフルエンザのウイルスの変異が起こっているのではないかなというようなお話がございました。

またもう一方、春に終息したと思われましたはしかが、練馬の都立高校1年生で発生し

ておりまして、2学級が学級閉鎖をしております。春の流行を受けて、国のほうは来年の4月から中学1年生、高校3年生にワクチン接種を義務づけるということでございますけれども、実際に今の予防接種が個別接種ということになりますと、中学校1年生、高校3年生がワクチンのために医療機関を訪れることが起きるでしょうか。ちょっと私は心配しております。国は、95%の接種率を保ってもらいたい、これが麻疹撲滅になるのだということでございますけれども、今の制度の中で、果たして接種率を上げることができるのか、まだ具体的なことはできておりませんが、東京都としても積極的な施策を打ち出す予定であるというお話を聞いてまいりました。

長くなりまして申しわけございません。私からは以上でございます。

高木委員

私は、11月6日、7日と、平成19年度市町村教育委員会研究協議会というのに出席してきました。まず、1日目は、王子の北とびあさくらホールというところでありまして、あいさつの後、初等中等教育企画課長さんとかからいろいろご説明がありました。

まず、教育三法の改正で、特に地方教育行政の組織及び管理に関する法律（地行法）が教育委員会が直接関係するのですが、教育長に委任できない事務の明確化、委任している場合は19年度中に規則の改正が必要。それから、教育委員会の点検・評価。20年度中に点検評価の実施、議会への報告が必要。フロアからの質問で「評価基準は出ないのですか」ということだったのですが、文科省の方から「出ません」と。各自治体が現在やっている行政評価と屋上屋にならないようにということで、文科省としては出さないということです。ただ、取り組み事例は出すそうです。あと、教育委員の保護者への選任の義務化が20年4月1日で発効しますという説明でした。

学校評価についてですが、あとの分科会でも説明があったのですが、実施手法ということで、教職員による自己評価と、あと、従来は「外部評価」と言っていたものを「学校関係者評価」。つまり、保護者ですとか、地域の方というのは完全な外部ではない、しかし教職員でもないで、今後は「学校関係者評価」と呼びましようということになりました。従来、外部評価と認めていた児童・生徒と保護者等へのアンケートも、これはあくまで自己評価のための資料ということで、外部評価そのものではないという位置づけになってくるということです。そのほかにいわゆる第三者評価。完全に保護者とか地域住民とかではなくて、有識者による第三者評価。この三つをセットにして学校評価を20年度からやってくださいということです。

あと、学校支援地域本部事業というのがスタートしまして、全国の中学校区単位で地域全体で学校教育を支援する体制をつくると。それについて財政措置をするということなのですが、例によって東京都は比較的財政が豊かということらしくて、お金は直接は出てこないのです。中野区でもスクールサポーター制というのを出していますので、これがここで言うところの学校支援協力者ですとか、学校支援ボランティアといった位置づけとかなりかぶってくる部分がありますので、スクールサポーターについては、名称等も、ほかのところで使っているのを検討という話も以前の教育委員会でありましたので、この学校支援地域本部事業の枠組みをよく検討して、これとの兼ね合いというのを考えて進めていく必要があるなというのを強く感じました。

それから、特別支援教育支援員の配置についてです。これも、以前、教育委員会でちょっと出ましたけれども、東京都は財政が豊かなので、直接お金の措置はないということなのですが、学校教育法で定めるところの特別支援が必要な児童・生徒たちについて学習生活上の配慮をするような介助員さんのようなものを計画的に配置しようということです。中野区も少しずつやっていますが、先ほどの委員長のお話にもありましたように、やはり特別支援教育はマンパワーが必要なので、そこら辺を教育委員会としては区長さんのほうにお願いして、きっちりやっていきたいなと思っているところでございます。

続きまして、今の東京都の教育委員会委員長で、独立行政法人大学評価・学位授与機構構長、それから東京工業大学の元学長の講話がありました。題が「学校が取り組むべき課題」と教育の質の保障ということなのですが、要は、今回の文科省の調査なのですが、結果としては非常によかったと。「ゆとり教育」というのはあくまでマスメディアがつけた名称であって、文科省としては「ゆとり教育」とは言っていないそうなのですが、各教育委員会、先生方の努力によって基礎・基本はしっかりついているなど。ただ、それを活用する力については、国際比較でやるとまだまだ弱いところがあるので、これをしっかりつけていくような形が必要だなということをしきりに強調していました。

あと、シンガポール等々との比較については、シンガポールやフィンランドの人口 500 万人ぐらいの国と人口 1 億の日本では教育制度の設計が違うので、フィンランドでやったことをそのまま日本に持ってくるのはやはり難しいのではないのかなと。ただ、見習うべきところは見習って、よりよく日本の教育をしていくべきだなというところを盛んにおっしゃっていました。

あと、2 日目は、なぜか場所が変わって、青山のホテルフロラシオン青山というところ

で分科会がございました。私が出席したのは第1分科会「学校評価の目指すものと教育委員会の役割」ということです。三重県津市の教育委員会と東京都府中市の教育委員会の取り組み事例の発表がありました。三重県津市の事例は学校経営品質の導入と外部評価の活用ということなのですが、三重県全体で財団法人社会経済生産性本部の提唱する日本経営品質の考え方を導入して学校評価をしていくということなのですが、この財団法人社会経済生産性本部の理事長の方には実は経済同友会で何回かお会いしたことがありまして、「最近学校なども経営品質の使い方をやっているのですよ」というお話を聞いていたのですが、三重県で導入しているということまで踏み込んだ話はしていなかったのですが。

大きく二つの柱。学校経営の改革方針をPDCAサイクルで自己評価していくということと、あと、学校経営品質アセスメントということで、評価シートをつくってそれでチェックをしていく、この二つだそうです。私がちょっと疑問に思ったのは、学校経営の改革でPDCAサイクルでやっていくというのは当たり前のことなのですが、その数値目標がないのですね。そうすると、「〇〇をやりました」で終わってしまうので、これって本当に効果があるのかなということ。あと、アセスメントシートはあるのですが、評価基準がない。そうすると、教育委員会として津市全体の教育の質の保障ですとか、そういうのをどういうふうにやっていくのかというのがちょっと疑問で質問させていただきました。

府中市の教育委員会は、学校評価システムということで、先ほどお話ししたような学校の関係者評価、内部評価、第三者評価ということで、システムについて、これはなかなか参考になるなと思ったのですが、やはり評価基準がないのですね。そうすると、教育委員会として、公教育ですから、すべての学校において質の保障というのが必要だと私は思うので、そこら辺はどうなのかということ。あと、第三者評価、学校評価委員会というのを各学校で設置しているのですが、評価基準がないと恣意的な評価になるのではないかと私は短期大学で短期大学基準協会の第三者評価をやっておるのですが、一つは、全国の短期大学の質の保障という部分で短大としては絶対クリアしましょうということと、各学校のいい取り組みを共有しましょう、この二つで学校評価をしていくのです。これは、アメリカの大学評価、ア Kredィテーションはこういう形を。日本の四年制大学もそういう手法をとっているのですが、多分、学校評価というのは、大学院、大学、短期大学でまず入って、高校、中学、小学校と、初等中等教育に文科省としてはおろしているという方向があるので、これがなぜ初等中等教育で違った方向になってしまったのかなというのはちょっと疑問なのです。いずれにせよ、中野区でも入れていかななくてはいけないので、その辺が大き

な課題だなというのを強く感じました。

続いて、9日金曜日、私も第十中の視察と中学校長との意見交換に行っていました。授業の中でちょっとおやつというか、こういうのをやっているんだと思ったのは、3年生が柔道の授業をやっているのですね。私が学生のころは高校で武道必修で、剣道か柔道をやったのですが、格技室というのがありまして、「格闘技」の「闘」の字を抜いて「室」をつけたという形ですね。上だけ柔道着を着て受け身の練習をやって、なかなかいいなど。ただ、普通教室の転用ですので、畳の部分がちょっと狭くて、最近の子どもたちは体格が大きいので、ちょっとかわいそうというか窮屈そうだったなという気がしました。

私、給食を食べるときに1年生の教室に行ったのですが、1年生で特別支援が必要な生徒さんがいて、介助員さんがほぼつきっきりでお世話をしているような形でした。たまたまその生徒さんと同じテーブルと一緒に食べましたが、なかなか1人で給食を食べるのも厳しい状況なのですね。私は、基本的には、特別支援教育がスタートしたので、できる限りそういった生徒さんが一緒に中学校、小学校で学んでいくというのは非常にいいことだと思うのですが、それに対するサポート体制をきちっとつくっていかないと、先生方が非常に大変だと。そもそも小規模校化していますので、先生の絶対数が少ないですから、それを補うようなことをやっていく必要があるなど。

全校生徒は100人を割ってしまっていて、余裕教室が非常に多くて校舎ががらんとしているのですね。周りを見ますと、中野坂上のそばなので、周囲はオフィスビルががーんがーんと林立してしまっていて、とても中高生の子どもが住むような一軒家もマンションも少ないのですね。マンションはあっても、多分、小学校ぐらいまでの感じなのかなと。そこで賃貸で中学、高校ぐらいになると手狭になって出てしまうのかなと。そういう状況ですとなかなか厳しいのかなという実感があります。ただ、九中と中央中の統合が平成24年4月にスタートします。その段階で中野一丁目と中央三丁目のエリアが十中校区に編入される予定です。ここは結構住宅街が多いので、ここまで何とか先生方に頑張ってもらって、学校を地域の方にも支えていただければなということを感じました。

それから、11月10日に、第六中の60周年の記念式典と祝う会に出席させていただきました。ことは一中から八中までですか、昭和22年の新制ができたときにできた学校がたくさんありまして、記念行事が多いのですが、六中では、創立当時の城西国民学校の学級日誌がありまして、六十何年前になるので本当にぼろぼろだったのですけれども、当時の歴史の一端をかいま見て、非常に興味深かったです。

あと、生徒代表の言葉が物すごくよかったです。ちょっともらい泣きしそうになりました。お話を聞くと、東京都のそういう関係で準優勝したということです。あと、生徒合唱と卒業生有志の合唱があって、最後は一緒に校歌を歌われたのですが、統合ということで、最後の周年行事ということでちょっと感慨深いものがありました。私も教育委員になる前に六中と十一中の統合委員をやらせていただいたので、私は個人的にも非常にぐっとくるものがございました。

六中の式典が終わった後に、野方ウィズで、中学校英語学芸会というのをやっていたので、最後のところだけちらっと見させていただきました。最後の中央中さんのミハイル・エンデの「モモ」の中盤以降ですね。三中、四中、七中、八中、十中、中央中が、英語劇ですとか、英語スピーチ、演奏、こういうのを全部英語で。始まりの言葉とか講評も全部英語でやっていて、非常に大したものだなと。私どもの国際短期大学も英語コミュニケーション学科はあるのですが、なかなかここまではできないということで、非常にびっくりするとともに感激しました。

以上でございます。

飛鳥馬委員

私も、2日に谷戸小の研究発表に行きました。山田委員長がさっきお話しされましたように、子どもたちにライフスキルという特色ある取り組みを見させてもらいました。要するに、人間関係コミュニケーションをつくる上で、必要な技能をつくるのです。これがまた、ほかの言い方ではなくて、段階を追って、困ったときにだれに相談しますか、どんなふうに相談しますか、解決方法はどんなものがありますかとか考えさせていくような、そういうやり方です。ですから、非常に抽象的に言っているのではなくて、具体的な場面でそうやっていくことが多いのですが、要する技能、能力ですね。それが身につくのかなというふうに感心をしました。

それから、5日は事務局の方、教育長さんたちと、千葉県の打瀬小学校という幕張メッセの近くにある学校ですが、オープンスペースの学校ということで見に行きました。十数年前から打瀬というところでオープンスペースの小学校ができて、そのとき、最初に私は見に行ったのですが、それから十数年たって、もう3校にふえているのです。周りじゅうマンションとか、そういう集合住宅がたくさんありまして、子どもがどんどんふえているのですね。そういうところでオープンスペースですから、教室と廊下の仕切りがないというつくりです。敷地もたくさんあります。2階建てです。それから、3面ぐらい窓で、

全部明るい、そういうところですよ。

教頭先生に感想を聞いてみたら、やはり音の問題が非常気になるそうですね。仕切りがないのです。多少工夫はしてはいましたが、明るいのですけれども、そういう音の問題。それから、夏の暑さですね。冷房がないのです。多少そういう問題もあるようですが、そういうちょっと形の違った学校を見てきました。

それから、7日は、中野区の区民の方が北京の西城区という交流しているところを訪問してきたわけですが、その人たちの反省会に出席しました。何回か中国へ行っている方もいるのですが、初めての方もいて、印象的だったのは、やはり見ると聞くでは大違いだということです。中国の発展の物すごさというのをみんなで実感してきたようです。ちょうど段ボールが肉まんにまぎっているとか、そういう食品が危ないとか言われたすぐ後だったものですから、行く前は、「何で今ごろ中国へ行くの?」とか、「お土産は要らないよ」とかいろいろ言われて行ったけれども、ほとんど全員の方が「行ってよかった。また行きたい」というような感想でした。

一つは、直接区民の方と交流ができたこと。中野まつりにも40~50人来て、北京の西城区の方が出演されていたと思うのですが、その人たちが私たちが行ったら歓迎してくれまして、数十人出てきて、いろいろな中国の民俗芸能みたいなものをやってくれて、私たちが歌を歌ってお返ししたりしたのですが、そういう交流ができたというのは非常によかったです。

もう一つ私が感激的だったのは、北京の大きな公園に行ったら、高齢の方が20人、30人ずつぐらいのグループをつくって、そして合唱をしていたり、太極拳みたいなものもありますけれども、最近のでは新体操のリボン、細長い2メートルもあるような、あの棒を持ってやるような、それがみんなお年寄りがやっていたり。それから、人数が少ないところでは伝統的な楽器などを持ってきて演奏したり。あるいは、囲碁みたいなものを行っている人もいたり。非常に生き生きと活動していてびっくりしました。明るく元気なのです。日本の高齢の方の過ごし方とちょっと違うなど。いっぱいいるのです。明るく元気ということで、人と人の中で、コミュニケーションを大事にしながら老後を送るということをしているというふうに向こうの方は言っていました。そんなことで、日本でないところを見てびっくりしました。

それから、9日は、やはり十中訪問しましたが、さっきから言われているように小規模校ですが、非常に部活も盛んで、いろいろな取り組みをしていました。

3年生と食事を一緒にしましたが、3年生の男の子も元気にいろいろ対応してくれて、お話もしてくれたというので、いい生徒だなということを感じました。

あとは、10日の土曜日は、一中のほうの60周年に私は行ってきました。一中も60周年ということで、1期生の方も何人か見えられていたり、同窓会もありますので、同窓会の方も出ていました。どこへ行っても、60年ぐらいたちますと、創立当時の大変だった話をお聞きするわけですが、一中も例に漏れず、最初のころは教室が足りなくて、小学校を間借りして分教場をつくって、小学校へ行かなければ勉強する場所がなかったみたいな話とか。校庭も雑草と石だらけで校庭として使えないので、保護者とか、生徒とか、教職員——当時の写真が残っているのです。みんなスコップを持って、拾った石を大八車で運んだり、そういう写真がありましたけれども、そんな苦労をしながら学校をつくったのだなということ、周年行事へ行くとそういう話を聞くわけですが、一中もそんな状態でスタートとしたということですね。

あとは、同じ10日の午後から、私、中学校の連合の芸能発表会——これは英語ではなくて日本語の劇のほうを見に行きました。毎年やっています、もう3回連続で行っているのですが、いつも思うのは、三中は長唄という、なかなか聞くことができないようなものをやってくれているのです。子どもたちも先生も一生懸命練習してやっているということ自身が非常にすごいと思うのです。

あと、中野の特色だと思うのですが、私立の学校と一緒に参加して、今回も実践学園と東大附属と明大中野の3校が出ているのです。同じ区内の中学校としてやっています。これもなかなかいいなと。劇の内容は非常に難しい内容でしたが、大変好きなものだから、見て楽しんで帰ってきました。

以上です。

大島委員

私は、11月2日は、山田委員、飛鳥馬委員と一緒に谷戸小の研究発表に行きまして、大変意欲的なケーススタディの授業なども拝見して、とてもいいなと思ったのですが、詳しくは省略いたします。

それから、8日は中学校の連合音楽会がありまして、今、山田委員は午後いらしたというお話がありましたけれども、私は午前中のほうを見に行きました。すごくすばらしくて、和太鼓があり、合唱があり、吹奏楽があり、管弦楽団、フルオーケストラまでありまして、みんなすごくレベルの高い演奏で、中野区は音楽の教育に熱心ですばらしい先生方がいる

というお話も聞いたのですけれども、指導が素晴らしいなと思ったのです。ただ、残念なのは、そこに出る、出演する生徒たちがお互いにそこで聞くだけで、ほかの人たちは参加していないし、出席していないので、聞けるのが出演者だけなので、非常にもったいないなど。もっと多くの人に、あるいはほかの生徒たちにも聞いてもらえたらいいのになというふうに思いました。

それから、9日の十中の訪問と校長先生たちとの懇談会に私も参りまして、校長先生からいろいろな要望とかご意見が出て、大変にしみたり参考になったりしたのですが、内容はちょっと省略させていただきます。

それから、10日の土曜日には、中野五中の60周年記念式典と祝賀会に出席いたしました。それで、私も五中の卒業生ですので、母校ということで、あいさつにもついつい熱が入ってしまいまして……。さっきのお話にもありましたが、初めのころは小さい校舎でとか、間借りしていたとか、いろいろ苦労話があったのですけれども、私が卒業したのは41年前なのですが、「私のころにはもう鉄筋の校舎が整ってまして」とか、歴史の生き証人みたいな思い出話をしてしまったりしまして、私もとても感慨深いものがあったのです。生徒たちも、1年、2年、3年、それぞれ学年ごとの合唱を聞かせてくれまして、素晴らしい合唱で、私たちのころはみんなで合唱をやったという記憶がないので、教育のレベルというのもすごく上がっているのかなと感心したりいたしました。

以上です。

<教育長報告事項>

教育長

周年行事が幾つかありまして、11月3日、二中の祝賀会に出てまいりました。それから、11月10日は五中へ大島委員とご一緒に式典・祝賀会に行つてまいりました。

それから、11月4日ですけれども、秋季柔道大会というのがありまして、そちらのごあいさつ。それから、日本舞踊大会というのが午後ございましたけれども、そちらも中野区舞踊連盟が主催でありますので、ごあいさつさせていただきました。

それから、11月7日、先ほど高木委員からお話ございましたが、市町村教育委員会研究協議会。私は第3部会の「特別支援」というようなところに出たのですが、熊谷市とあきる野市の発表がございました。東京は結構特別支援が先進自治体だなというふうに感じました。

それから、11月14日ですけれども、青少年問題協議会というのが区役所でございます

た。これは、青少年の健全育成につつましていろいろな方が集まっているというような会議でございますけれども、その中で、青少年委員の見直しについて考えているというようなことで子ども家庭部から説明がございまして、さまざまな意見交換があったということでございます。

それから、昨日、11月15日でございますが、薬物乱用防止中野地区大会というのが3時から5時まで、スマイル中野でございました。これは、いわゆる薬物乱用を防止するために地域の中でさまざま取り組もうということで、そういった協議会があるのですけれども、その協議会の主催で行っているものでございます。その中でポスターの募集と標語の募集を行いまして、その表彰式をやったのですけれども、ポスター部門では、北中野中学校、三中、明大付属中野中で6人の中学生が表彰されました。最優秀は北中野中の女の子です。それから、標語部門では、これは北中野中と明大中野中6人が表彰されました。最優秀は北中野中学校の男の子が受けまして、「薬物で 自ら壊すな 輝く命」。この標語は、この後、東京都のほうにも出されまして、東京都に1万4,000ぐらい集まったらしいのですけれども、その中で1位になったそうです。最優秀をとりまして、今度都庁で表彰されるそうです。そういうことでありまして、極めて輝かしいというか喜ばしいことで、みんな褒めていました。この12人につつまして表彰されまして、いろいろな方がお祝いしたと、そんなようなことでございます。

以上でございます。

<事務局報告事項>

山田委員長

続きまして、事務局からの報告をいただきます。

第1点目、「平成20年度予算で検討中の主な取り組み（案）について」の報告をお願いいたします。

教育経営担当課長

それでは、平成20年度予算で検討中の主な取り組み（案）につつましてご報告をさせていただきます。

来年度、平成20年度の予算編成の作業を現在精力的に進めているわけでございますが、その予算編成の中で現在検討中の来年度新規事業、あるいは拡充・廃止といったような、区民生活への影響が想定される主な取り組みにつつまして、現在の検討状況を区民にお知らせするというものでございます。資料にそれらの検討中のものがございまして、これに

つきましては、この後、12月5日発行の区報、それからホームページに掲載しまして、区民との意見交換を予定しているものでございます。

現在検討中の主な取り組みの項目でございます。これらにつきましては、区の10か年計画で示しております四つの戦略がございますが、それに従いまして区分けをしてございます。教育委員会に関連する主なものということで項目として出されているものにつきましてご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、②の「地球温暖化防止戦略」の3番目をごらんいただきたいと思います。「学校の緑化（校庭の芝生化・屋上緑化）」とございます。「小中学校の校庭の芝生化や屋上緑化によって、地球環境にやさしい取り組みを計画的に進める」ということとしてございます。これにつきましては、校庭の芝生化は既に小学校2校で実施してございますが、これまでのように1年間に1校というようなものではなくて、もう少しスピードアップを図ると申しますか、年限を定めまして、ある程度そういった中で計画的に全小・中学校の校庭の芝生化を進めようかということで検討を進めてございます。あわせて、屋上の緑化につきましてもこれを計画的に進めようということで現在検討を進めているところでございます。

それから、次の③「元気いっぱい子育て戦略」というところでございます。こちらの3「少人数教育の充実」でございます。「少人数指導・習熟に応じた指導を充実させるため、『学力向上アシスタント』を増配置し、きめ細かい指導を行い、基礎学力の定着を図る」というものでございますが、これは現在、少人数指導・習熟に応じた指導の充実を図るために、算数・数学につきましてこの学力向上アシスタントを配置しているところでございますけれども、その配置につきましてさらに充実を図っていくということで、中学校の理科、あるいは英語などにも拡充しながら、より学力の向上の充実を図っていくという内容で検討を進めておるところでございます。

それから、4「特別支援学級運営」でございます。「中学校に新たに特別支援学級（知的障害）を増設する」となっております。これにつきましては、特別支援学級の在籍児童・生徒数が増加傾向にございまして、今後もその増加が予想されるために、学級規模や地域バランス等を考慮して、増設を図る必要があるであろうということで検討を進めているところでございます。

それから、5「仲町小学校跡地施設整備」でございます。これは、教育委員会のほかに、子ども家庭部、保健福祉部とまたがるものでございますが、あわせて、この下の④「健康・生きがい戦略」の4のほうに二つの戦略にまたがる事業ということでございます。「仲町小

学校跡地を、子ども・障害者・高齢者の健康・福祉に関する相談施設、地域スポーツクラブの活動拠点、精神障害者社会復帰センターとして活用するための改修工事を行う」ということで、この地域スポーツクラブの仲町小学校での跡地整備につきましては、既に基本的な考え方ということで以前ご報告をさせていただきました。この地域スポーツクラブの整備を図るということで、この仲町小学校への施設整備、来年度につきましてはその整備に向けた設計ということで事業のほうの着手を検討していくということでございます。

それから、この最後をちょっとごらんいただきたいと思います。今後の予定ということで、先ほど申しましたとおり、今回、区民の方々にお知らせをした後、これら検討中の各項目につきまして、また、それ以外、区の来年度に向けた予算編成等にかかわりまして、区民の方々との意見交換を予定してございます。12月12日と13日に地域での説明会、また14日には区長との対話集会ということで、これらのことにつきましての区民との意見交換などを予定しているという段取りになります。

以上でございます。

山田委員長

ただいまの件につきまして、ご質問がございましたら、お願いいたします。

飛鳥馬委員

②の3の校庭の芝生化のところですが、若宮小学校が最初でもう1年たちますかね。その効果というのですか、やってよかったという話もあると思うのですが、こういうことで不都合だということもあるかもしれないですね。その辺のところを今後ちょっと把握していただいて、もうちょっと区内に広めるときの参考にさせていただきたいということが1点。

もう1点は、中学校は子どもたちが毎日放課後、野球、サッカー等で使うので、なかなか芝生化は難しい。余り積極的でないというところがあると思うのですね。そういうことも含めて、中学校で可能であるかどうかの検討も必要だと思いますが、23区内で中学校でやってうまくいっている学校があるのかないのか、その辺のところも情報として知らせていただければありがたいなと思います。

教育経営担当課長

既に若宮小学校、武蔵台小学校とやっておりまして、学校から報告をいただいている中では、やはり子どもたちが以前に比べて外で遊ぶ機会が非常に多くなったと。その中で、特にけがをする子どもたちが大きく減少していると。これは若宮小学校で統計をとったところ、実施前の年度と比べますと半分以下になってきている。元気いっぱい外で遊ぶ。

その一方で、すり傷とかそういったものは相変わらず多いかと思いますが、大きなけがが少なくなってきたということで非常にいいのかなと思っています。

中学校をこれから進めていく、すべての小・中学校に芝生化を進めていきたいと考えておりますが、今委員からお話がありました中学の場合、運動部の部活動との調整ということもあると思います。そういった意味では、中学校で既に実施しているところの状況であるとか、そういったところも情報収集しながら、全体として十分バランスがとれるような。それから、学校の場合、校庭開放も行ってございます。地域の方々が同じように野球とかサッカーで学校の校庭を利用されるということもございますので、そういったところとの関連といたしますか、利用のバランスなども考えながら、芝生化をどういうふうに進めていったらいいか、その辺のところも十分検討した上で進めていければというふうに思います。

山田委員長

今のに関連したことですけれども、例えば中学校については屋上緑化のほうを先に進めていくような、要するに養生期間もありますし、それから、先ほどちょっとご説明があったように、地域に開放している形になりますと、例えば野球とかそういった選択肢のときにはなかなか芝生は難しいということもあるので、そういうことを勘案すると、いわゆるヒートアイランドの防止ということの大きなくくりでいけば、とりあえず優先的に進められることからいけば、屋上緑化のこともかなり重要なことではないかなと思うのですけれども、その点はいかがなのでしょうか。

教育経営担当課長

今回、校庭の芝生化にあわせて屋上の緑化ということもこちらのほうで区民の方々から意見を聞く項目として出してきたわけですけれども、やはり屋上のスペースというの、緑化といいますか、中野区全体としての緑被率の向上、それからCO₂の吸収効果ということでも大変大きなものがあろうかと思っています。そういう意味では、校庭とあわせて、この屋上の緑化というものもこれから大きな課題であるし、進めていきたいというふうな考えのもとで今回項目としていろいろ議論の素材ということでお示ししてございます。

そういう意味では、できるだけ計画的に、芝生化もそうですが、屋上につきましても、どういうやり方がいいのか、いろいろな方法があろうかというふうに思っております。その辺のところも十分検討した中で屋上の緑化を進めていければというふうに思っております。その辺のところでもう少し煮詰めた上でやっていければというふうに考えております。

大島委員

屋上緑化なのですけれども、質問というか意見なのですけれども。

この前、1学期に二中を訪問しましたときに、屋上緑化をやっているということで一応案内していただいたのですが、ちょっとしたスペースに草がちょっと生えているのですが。それと風力発電も先進的な取り組みだということで1本ぐらいポールみたいなのが立っていたのですが、屋上は大体かぎがかかっている、ふだん入れないようになっているということもあるし、スペースが少なく、実効性がどうなのかなど。それで、メンテナンスなどもどういうふうに行われているのか。余り行き届いていないとか。二中の先進的取り組みとしては費用対効果などでちょっと疑問があるような状況だったので、それはそれとして、今おっしゃられたように、そういう費用対効果や、どういう方法がいいとか、もう少し実効性のある方法を検討していただけたらというふうに思っております。

教育経営担当課長

確におっしゃるとおりでございまして、屋上の緑化を進めるに当たりましては、その管理の問題も大きなテーマかというふうに思っております。例えば学校の場合ですと、夏休みがございまして、その間、校庭などの場合ですと、ふだんから子どもたちなども来ておきまして、十分注意がいくのですが、屋上などの場合ですと、そういった長期休業期間中の管理であるとか、散水のやり方とか、いろいろ検討する課題が多くあるのかなというふうに思っております。そういったものも含めまして、どういう緑化の形がいいのか、あるいはどういう管理の方法がいいのか、そういったこともいろいろな角度から検討した中で、計画的に屋上の緑化というものもやっていければなというふうに思っております。

飛鳥馬委員

もう一ついいですか。

ヒートアイランドと環境の問題等で屋上緑化を進めるということはいいと思うのですね。そういう意味があつていいと思うのですが、もう一つ、学校の屋上を緑化することであれば、子どもの体験学習との関連が何かできないか。今わざわざ遠くまで宿泊を兼ねて体験に行っているわけですけれども、それを学校の屋上の中でやれないかと。ただ緑で覆えばいいのではなくて、本格的にやる。金はかかるとは思いますけれども、そのくらいに考えなければ、ただ緑にしました、雑草が生えましてはなくて、子どもの授業の中に生かしていくような緑化という方法が特に学校としてあるのではないかなというふうに私は思うのです。今後の課題ですけれども。

教育経営担当課長

屋上にしろ、もう既にやっております校庭のほうにしましても、単に緑化というだけではなくて、それ自身がまた生きた子どもたちの一つの環境教育の素材でもあるわけがございます。対象となっておりますのは生き物でありますので、芝生とはいえ、それ自身、手入れを怠ればすぐに枯れてしまうというようなこともありますので、本当に身近なところでのすばらしい環境教育の素材だと。現に校庭の芝生化をしているところも、それにあわせて、いろいろ観測装置といいますか、そういったものも学校のところにつくりまして、いろいろな形で実際の教育の中に生かしていくというようなこともございます。その辺のところはまた学校のほうでそれを生きた素材として授業の中に組み立てていくということは当然期待されるところかなと思います。

高木委員

この芝生化なのですけれども、私は余り全校一律的に芝生化というのはちょっと賛成しかねます。というのは、向いていない学校はありますよね。冬も芝生を維持しようとする、夏に高麗芝、秋・冬は西洋芝で、ウインターオーバーシーディングといったある程度高度な技術を使って年間維持していくわけですね。その切りかえのときにはそういった技術が必要で、それは基本的には地域の人で維持するというのが前提になっています。例えば、この間訪問した十中のように、周りがビルに囲まれて日影が多いところだと、なかなかうまくいかないと思うのです。地球温暖化防止対策は非常に大切なのですけれども、それによって、小学校はまあまあいいとしても、中学校ですと、プラスマイナスでいうとちょっとマイナスになるかなというような学校もあると思うのですね。そういった場合は、ほかの委員からも指摘があったように、代替で屋上緑化ということで、地球温暖化防止ということに関しては異存はないのですが、そもそも「地球温暖化防止戦略」ではなくて「元氣いっぱい子育て」のほうに入っているべきなのかなと。ただ、予算上こうなっていると思うのですけれども、教育委員会としては、子どもたちの教育のほうを優先に考えるべきなのかなという気がします。それはそう思いますということだけなのですが。

あと、①の「まち活性化」の中で、例えば2「警察大学校等跡地整備」などは、中央中・九中の統合にも深くかかわってきますし、また、5「西武新宿線沿線まちづくり」や7「野方駅整備」というのは、踏切問題が解消されてくると、通学区の設定が子どもたちにとってプラスになるとか、あと、放課後の移動も分断されにくくて子どもたちの交流ができやすいという点で非常に重要なので、ここら辺についても教育委員会としては連携していく

必要があるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

教育改革担当課長

今おっしゃるとおり、九中・中央中の統合、新校舎建設に当たりましては、例えば学校の周囲の環境ですとか、通学の経路、そういったようなことを地域説明会等でもご心配になられている声がありますので、そういったことを含めて、私どもとしてもかかわっていく必要があるかというふうに思っております。

また、西武新宿線の関係につきましても、これは先日、当委員会でご報告いたしました。私どもとしては、踏切の安全対策申し入れ等を行っているところです。今まで踏切を渡って通学することについて懸念されてきたことが、こういった計画が進むことによって解消されていくということも含めて、積極的にかかわっていきたいというふうに思っております。

大島委員

特別支援学級のことで、中学校に新たに増設する計画だということがここにあるのですが、小学校のほうは、当面は今の数で足りているというふうに考えていいのでしょうか。それとも、本当はもっとあったほうがいいのか、その辺はいかがでしょうか。

学校教育担当課長

小学校につきましては、19年度に江原にわかば学級をつくっているということで、当面は足りているというような状況でございます。

山田委員長

直接教育委員会とは関係ないかもしれませんが、③の7に「区立学童クラブ運営委託」ということが出ていますが、今後、学校統廃合を進めていく上で、学童クラブのあり方も少し変化が起きるようになると思うのですけれども、方向としては、学童クラブはこれからだんだん民間に委託していく方向になってくるのでしょうか。

教育委員会事務局次長

これは、所管外ですけれども、これまで子ども家庭部から聞いているところによりますと、今でいえば児童館と学童クラブが一緒にある、そういった学童クラブについてはできる限り民間委託の方向を進めていきたいということをお伺いしております。

山田委員長

これからは民間に委託していく方向であるということですね。

教育委員会事務局次長

そうですね。一つの建物の中に、今で言えば児童館と学童クラブとセットで入っているところがありますので、そういったところについては委託を進めていきたいというような考えを伺っております。

山田委員長

わかりました。

そのほかにご質問ございませんか。よろしいですか。

では、次の報告事項に移ります。

「平成 19 年度新体力テストの結果について」の報告をお願いいたします。

指導室長

「平成 19 年度新体力テストの結果について」、速報としてお知らせいたしたいと思いません。

今年度から区立の小・中学校の全学年を対象に新体力テストを区として行いました。その調査の趣旨でございますが、各学校において体力テストの結果から個人及び学校全体、学級、学年等の体力の状況や傾向を把握することで、自分の学校の子どもたちの実態に合った体力向上プログラムを策定・実施していただくということ。そして、個々の子どもたちにとりましては、自分自身の体力の現状や課題を把握して、自分に合った運動や運動遊びを楽しみながら、これを継続して行えるような実践力を育てていくためにということ。区といたしましては、区全体の体力の現状を把握いたしまして、体力向上プログラムの成果と課題を明らかにしていくための評価に当たるようなものとして生かしていくことでの方向性を持っております。

先ほどお話をしましたように、この調査につきましては、今年度初めて全小・中学校の児童・生徒を対象に行ってもらいました。ただ、子どもたちの状況に応じて参加という形になっておりますので、全員が参加したという形ではございません。実施種目につきましては、(2)に書かれているとおりの8種目でございます。これは、国が決めております新体力テストの実施種目でございます。括弧の中に書いてございますのは、この種目によってとらえられます体力の主な要素、それぞれいろいろな要素を持ってございますけれども、主にこういう部分がとらえられるということで、国が述べているところでございます。例えば握力ですと、瞬発力を主にはかるような形になっているということでございます。

実施の時期でございますが、今年の5月から6月、各学校で実施していただいておりますので、学校の実態においてやっていただいております。

済みません。「結果の概要」は、裏に印刷しておりましたので「別紙のとおり」ではございません。裏になってございます。申しわけございません。

4番でございますが、「調査結果の分析・公表」につきましては、現在、区全体のものにつきましては、この後、文書にて各学校に公表したいというふうに思いますし、調査結果の分析につきましては、事務局及び、区内の校長・副校長・教員でつくっております体力向上委員会で報告書を作成いたしまして、1月25日に予定しております体力向上プログラムの試行校の報告会の中で区としてのことも報告していく予定でございます。

現在、体力向上のほうの取り組みでございますが、各学校は各学校の実態にあわせてこれを分析し、体力向上プログラムの全体計画は作成し終わっております。現在、さらに細かくしました年間計画につきましてそれぞれの学校が作成しているところでございます。

裏面でございます。今回、速報値といたしましても、都のほうはまだ数値を明らかに公表しておりませんので、こういう形にさせていただきました。本区の新体力テストの結果と都の平均とを比較したという形で上段に出しております。この表の見方でございますが、都の平均を上回るものについては「○」ということで、「◎」になりますと、5%以上の差で上回っているという形。「△」は都とほぼ同じということでございます。「▲」になりますと都を下回っているということで、三角が多いほど都の平均を下回っているという状況でございます。

下段でございますが、平成19年度のものと同じように比較したものを出してございます。これにつきましては、小学校、中学校においては全校の結果ではございませんので、あらかじめお話をさせていただいておきたいと思っております。

結果については、そこに何点か特徴的なものを挙げておきました。小学校におきましては、反復横跳びや50m走では都平均とほぼ同じか上回る学年がふえてきてございます。それから、立ち幅跳びでは都平均を下回る学年が多かったということでございまして、長座体前屈では男子の平均値に若干低下が見られたという状況がございまして。

中学校におきましては、都平均と同じか上回っている種目が多い状況でございます。これは16年度も同じような状況がございまして。男子の握力とボール投げは都平均を下回ってございます。20mのシャトルランでは都平均を下回ってございますが、持久走では都平均を上回ってございます。この20mのシャトルランと持久走は同じねらいで導入されておきまして、表側に書いておきましたように、全身の持久力を見るということで、中学校に

においてはシャトルランと持久走を選択して行っております。シャトルランのほうを行いました学校は3校、持久走を行いました学校は11校という状況になってございます。

簡単でございますが、以上でございます。

山田委員長

ご質問ございましたら、お願いいたします。

飛鳥馬委員

今の最後の説明の、20mのシャトルランというのと持久走というのは何メートルかということですが、ちょっとメートルを聞きたいことと、「中学校は20mシャトルランに替え、持久走を実施することができる」というふうに書いてあるのですけれども、その特色とか違いが何かあるのだろうと思うのですけれども、イコールに変わらないのだろうと思うのですけれども、ですから、この中野区の特に中学校の場合は、都と比べるとこういう差が出るのかなと思うのですね。いわゆる持久走は男女とも都と同じぐらいなわけですけれども、シャトルランになると「▲」が多くなっている。ですから、かえてもいい種目なのにどうしてこんなに違うのかなという疑問があるのですけれども、その違いを教えてください。

指導室長

持久走のメートルのほうは後でお知らせいたしますが、決まった距離を何秒で走れるのかというのが持久走なのです。20mのシャトルランといいますのは、音声に合わせてスタートしまして、一定間隔で音声がかかります。その音声が鳴るときに20m先の線を触れたり超えたりする、その繰り返しをするわけです。20m先へ走って、音声が鳴ったときに触れているかどうか。触れなくてもよしとするのですけれども、2回続けて触れなかった場合にはそこでストップという形をとるのです。ということで、何回往復できたかというのをはかるのが20mのシャトルランになります。ですので、同じ持久力と言いましても、根本的には違うかなというふうに思っております。

小学校は20mのシャトルランを行いますので、小学校で経験してきている学年は比較的こういう部分については強いのかなというふうに思いますが、本来は違う要素があるかなというふうに私どもとしては思っております。距離としましては、1,500メートルということでの持久走になっています。各学校は、学校の校庭の状態ですとか、人数ですとか、いろいろなことを配慮して実施を選んでいる状況だというふうに見ております。

済みません。訂正させてください。男子が1,500mで女子が1,000mです。

飛鳥馬委員

やる種目が違うのでイコールにはならないとは思いますが、ちょっと差が大き過ぎるのかなと思ったものですから。理由はわかりましたけれども、両方やれば一番いいということになるかもしれません。

それと、もう1点は、これから分析されるのだらうと思うのですが、小学校も中学校も、学年ごとに横に見ていくと、男女とも見ていくと、4年生が比較的いいと思うのですね。黒が少ないですね。それから、中学校は女子が比較的よくて男子よりはいいという感じがするのですが、分析はこれからということですが、何か気がつくことがあるのでしょうか。

指導室長

16年度を見ると、女子のほうはともかくとしましても、4年生がいいというふうにもなかなか言えない部分はあるかなというふうには思いますけれども、恐らく1、2、3年生は、体力テスト自体の種目に、「なれ」てもいけないのですが、全員でやっておりますので、今回は初めてやるお子さんが多かったかなというふうに思っております。ですので、こういうものについての経験の問題もあるかなというふうに思います。経年で見ていかなければならないかなというふうに思っております。

高木委員

最近の子どもたちの体力の、特に都市部の傾向は、新聞等でいうと、「二こぶラクダ」になっていると。平均値だと、昔と比べて多少上下だけれども、家でゲームばかりやっているかどうかわかりませんが、比較的下のほうのグループと、あと、運動大好きの上のほうのグループと分かれています。だから、平均だけではちょっと出にくいというような話を聞くのですが、今回そこまでのデータはここにはないのですが、今把握している状況ではそんなような状況というのは中野区で見られるのでしょうか。

指導室長

それぞれの学校においてはそういう分析もできておまして、その傾向も中野区としてもあるかなと思います。特にこの体力テストとあわせて、日常的な遊びですとか、運動のことも調査いたしましたら、体を動かすということについては二極化している傾向はあるようでございます。

山田委員長

よろしいですか。

基本的なところを縦に見ていくと、体がかたいですね。小学校とか連合運動会などで体操を見ますけれども、本当に体操しているのかなと思うぐらい、「前屈しているの？」というぐらいかたいですね。この辺が学校でのいろいろな事故につながるのかなと。僕たちも先ごろ中学校で武道を見てきたのですけれども、あの受け身がきちんとできればなんですよ。発達段階の今の小さい子を見ていますと、ハイハイが余りできないうちに立ち上がってしまう、歩いてしまうお子さんが結構多いのですね。「お母さん、頑張って、ハイハイを何とかさせてください。そうしないと、転び方がわからなくなりますよ」と。この辺から始まっているのかなという気がして。地域の中で子どもたちに体操を教える教室がすごくはやっていることもありますけれども、小学校の低学年で体のかたさを何とか取り戻す。例えばでんぐり返しというのは昔みんなできたと思うのですけれども、今、1回やると次の動作ができないのですね。ボタンで終わる。次の動作ができないと、2回でんぐり返しができないので、2回やるということができなくなっている。こういうことを目の当たりに見ていきますと、せめて小学校のときにストレッチの関係での、例えばの話は、ラジオ体操を毎朝やれば随分違うのかなという気がします。夏、6時半ぐらいに各地区でラジオ体操をやっていますよね。行きますと、ほとんどお年寄りの中にまじって子どもたちがやっている。お年寄りたちはお年寄りたちで元気にやっているのですけれども、子どもたちは余り数が出てこない。早寝早起きがなかなかできていないというのもあると思うのですけれども、そういった意味では、個々の学校に返すことも一つですけれども、このかたさをとるということはそんなに難しいことではないのではないかなと思うので、その辺をぜひ取り組んでいただければと思います。

もう一つ、持久走については、今、健康的な問題ですと、ぜんそくがふえていまして、運動したためにぜんそくが起きるお子さんが結構いらっしゃるのですね。そういった中では、ちょっと持久走が苦手という子どもがふえている可能性はあるかなという気はします。小学校は冬場になりますと校庭を何周も走ったりしている学校も多いので、そういった取り組みはされているのだらうと思いますけれども、健康上からは運動誘発性ぜんそくというのが結構ふえているので、そういった意味ではちょっとつらいところがあるかなという気がします。ぜひ柔らかさを保つというか、向上すれば、学校でのいろいろな事故防止にもつながるのではないかなというふうに思っています。

飛鳥馬委員

もう1点いいですか。

分析をするときに、できたら比べてほしいなど思っていることは、これは新体力テストですので、前の、昔からやっている「旧」がありますよね。同じ種目がたくさんあると思うのですが、それだけでも比べられると、昔の子に比べて今はどのくらいだめなのかというのがわかるかなと思うのですが、それはあるのでしょうか。後でも構いません。新しい種目はまだそういうのはないと思いますけれども。

指導室長

私どもも、ボール投げですとか、50m走は昔から記録がございますので、それについては指標にもしてございますので、その部分については幾つかの記録はございます。やはり低下傾向にあるというのが実情でございます。

山田委員長

そのほかにご質問ございますか。よろしいですか。

では、次の報告事項に移ります。

「東中野図書館の臨時休館日について」の報告をお願いいたします。

中央図書館長

お手元の資料をごらんいただきたいと思います。

東中野図書館は、東中野保育園を1階に併設しております3階建ての施設でございますが、老朽化が著しく、とりわけ電気設備の更新を緊急に実施しなければならない状況にあることがこのたび判明いたしました。そのため、下記のとおり臨時の休館日を設けさせていただくというものでございます。

休館日といたしましては、12月24日の月曜日。この日は天皇誕生日の振替休日に当たっております。この日を休館日に設定いたしました理由でございますけれども、やはり併設の東中野保育園の休園日にせざるを得ないだろうということを優先的に考えてございます。なお、図書館のこれまでの傾向といたしまして、祝日、連休は比較的客户が多い日でございますが、この日は連休の最終日に当たっておりまして、最終日は若干客足が落ちるかなというところでございますので、それも考慮した上でのご報告でございます。

なお、周知方法につきましては、本日以降、約1カ月間の期間をかけまして、区報、ないせず、ホームページはもとより、図書館内での掲示や来館された方へのチラシの配布なども含めまして周知を十分に図ってまいりたいと思っております。

以上、ご報告申し上げます。

山田委員長

ご質問がございましたら、お願いいたします。

大島委員

要するに、臨時の休館日を設けるということは、例えば日曜日とか、通常の休館日だけでは工事が終わらない、間に合わないので、こういう臨時のを設けて工事時間を確保する必要があるということによろしいのですか。

中央図書館長

申しわけございません。ちょっと説明が不足していた部分もあるかと思いますが、この工事のためには全館停電をする必要がございます。そのため、施設を営業するというのが非常に難しいということがございましたので、こういう事情のためにこのようなことになってございます。

山田委員長

保育園のほうはどうなんですか。

中央図書館長

保育園は、休みの日でないと、お子様、あるいは保護者の方に与える影響というのは非常に大きいものですから、それを考えますと、やはり保育園の休園日で、かつ、図書館の休館日というのが一番望ましいのでございますが、もともとそれがずれている関係がございます。東中野図書館につきましては、通常、毎週の休館日は木曜日でございますけれども、この日は保育園は営業しておりますので、そういう形ではちょっと難しいということでございます。

大島委員

わかりました。日曜日が休館日かと勘違いしておりました。日曜日は、普通、図書館はやっている日ということなんですね。わかりました。

山田委員長

そのほかにご質問はございませんか。

ありがとうございました。

そのほかにも事務局からの報告事項はございますか。よろしいですか。

以上で、本日予定した議事は終了いたしました。

なお、来週 11 月 23 日は勤労感謝の日のために休会となります。次回の教育委員会の会議は 11 月 30 日金曜日の予定です。

これをもちまして、教育委員会第 40 回協議会を閉じます。

午前11時33分閉会